

60代男女の将来不安から人生100年時代を考える

ライフデザイン研究部 上席主任研究員 北村 安樹子 (きたむら あきこ)

ライフデザインの視点でみた「60代」

政府が2月に閣議決定した新たな「高齢社会対策大綱」には、65歳以上を一律に「高齢者」とみる一般的な傾向が現実的なものではなく、つつあることを踏まえ、65歳以降も意欲・能力に応じた力を発揮できる社会環境を整える方針が盛り込まれた。現在70代を迎えつつある団塊の世代より上の世代は、60代というライフステージを職業生活からの引退や老後のセカンドライフへの「移行期」として想定した人生を歩んできた人が多かったと考えられる。しかし、人生100年時代に向けたライフデザインの視点からみると、60代はいまや就労期間や健康状態に関して「現役」期間に組み入れるべきライフステージになろうとしている。

このようななか、60歳以上の男女を対象とする内閣府の調査によると、将来の日常生活に関する不安として60代

が最も多くあげたのは「自分や配偶者の健康や病気のこと」(60～64歳:70.9%、65～69歳:71.1%)であり、「自分や配偶者が寝たきりや身体が不自由になり介護が必要な状態になること」(同61.8%、62.1%)がこれに続いた(資料1)。また、「生活のための収入のこと」(同48.3%、37.3%)についても、特に60代前半では半数近くを占めており、不安を感じている人が多い。自分や配偶者の健康や介護、そして生活費用の問題は、60代の男女が将来の日常生活を考えた場合の大きな不安要素であることがわかる。

三大疾病の発症等への不安意識

では、60代男女が最も不安を感じている「健康」に関して、現在、日本人の死因として最も高い割合を占める「がん(悪性新生物)」の発症等を不安に感じている人はどの程度いるのだろうか。当研究所が全国の18～69歳の男女を

資料1 60歳以上の男女における将来の日常生活に関する不安(年齢階級別) <複数回答>

(単位: %)

	自分や配偶者の健康や病気のこと	自分や配偶者が寝たきりや身体が不自由になり介護が必要な状態になること	生活のための収入のこと	子どもや孫などの将来	頼れる人がいなくなり一人きりの暮らしになること	金融制度(法律、社会保障・社会福祉)が大きく変わってしまうこと	社会の仕組み(法律、社会保障・社会福祉)が大きく変わってしまうこと	お墓の管理や相続のこと	家業、家屋、土地・田畑や先祖の墓の管理や相続のこと	だまされたり、犯罪に巻き込まれて財産を失ってしまうこと	家族との人間関係	人(近隣、親戚、友人、仲間など)とのつきあいのこと	親や兄弟などの世話	言葉、生活様式、人々の考え方が大きく変わってしまうこと	その他	特に不安を感じない	わからない
全体 (n=3,893)	67.6	59.9	33.7	28.5	23.1	21.6	16.9	7.7	7.6	6.3	6.1	5.7	0.4	3.9	1.7		
<年齢階級別>																	
60～64歳 (n=824)	70.9	61.8	48.3	31.9	23.2	24.2	23.4	6.6	8.7	7.2	14.2	4.1	0.4	2.4	0.6		
65～69歳 (n=919)	71.1	62.1	37.3	31.2	24.0	22.9	15.8	6.4	6.7	6.9	6.3	4.6	0.2	2.7	1.0		
70～74歳 (n=803)	68.9	62.3	32.0	29.4	23.8	21.3	15.2	8.0	5.4	5.9	3.7	6.2	0.5	3.4	0.7		
75～79歳 (n=625)	67.2	63.4	28.0	25.3	24.2	22.9	15.7	8.6	9.4	6.2	3.7	7.0	0.2	4.5	1.3		
80～84歳 (n=431)	61.3	53.4	20.2	24.8	20.4	16.7	14.8	10.2	8.4	5.1	1.9	6.5	0.5	6.3	3.9		
85歳以上 (n=291)	54.0	42.6	17.5	19.9	19.9	15.5	12.4	7.9	8.2	5.5	1.0	7.9	0.7	8.6	6.9		

(出所)内閣府「平成26年度 高齢者の日常生活に関する意識調査結果」2015年3月



対象に行った調査によると、10年後の自分の健康状態を想像した場合に、三大疾病と呼ばれる「がん」「脳卒中」「心疾患」の発症等に不安を感じる人はいずれも半数を超え、中でも「がん」についてはもっとも多い58.8%が不安を感じている(資料2)。性・年代別にみた場合、60代では男性の56.1%、女性の59.5%を占める(資料3)。

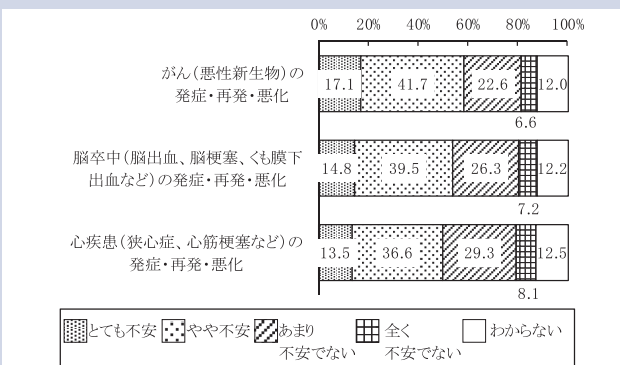
医療技術の進展等を背景に、がんをはじめ、三大疾病の発症という過酷な経験を経た後も、治療等や就労を続けながら病気とともに人生を歩む人が増えている。しかしながら、これらの結果からは、いわゆる三大疾病の発症等が、60代を含め依然多くの方が身近に感じやすい不安要素であることをあらためて確認できる。

介護問題・老後費用への不安意識

最後に「夫婦の人生設計」という観点から60代の有配偶男女に注目し、老後を考えた場合の介護問題や生活費用への不安意識をみてみよう(資料4)。不安を感じる人は、「自分の介護問題」では男性が79.7%、女性が87.9%、「自分や配偶者の老後費用」では男性が73.0%、女性が78.7%を占める。有配偶者の回答結果ではあるが、これらの老後問題に不安を感じる人は、先にみた三大疾病の発症等に不安を感じる人を大幅に上回っている。

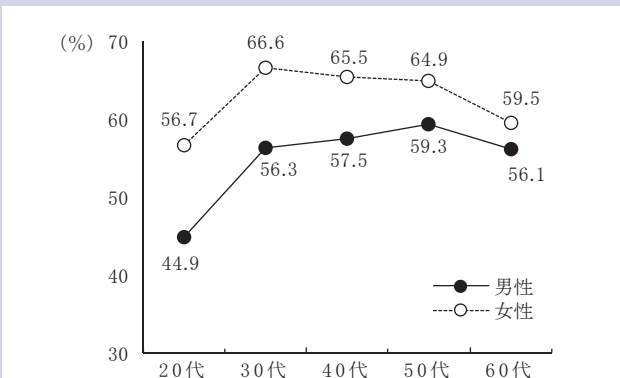
現在60代というライフステージを迎えている人々の多くは、三大疾病の発症等に対する不安を上回る水準で老後の介護問題や生活費用に不安を感じている。その理由は、人生100年時代においては60歳以降の人生が40年以上にもわたり、病気を経験して以降も続く長い人生を生きる時代になったからではないだろうか。

資料2 10年後の病気の発症等に対する不安



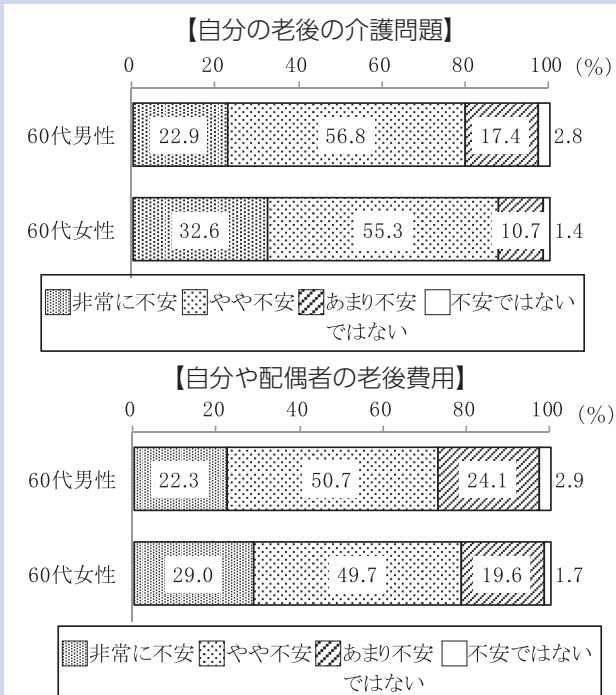
(出所)第一生命経済研究所「今後の生活に関するアンケート調査」(インターネット調査、調査時期は2017年1月27~29日)

資料3 10年後の「がん(悪性新生物)」の発症・再発・悪化に対する不安(性・年代別)



(注)「とても不安」「やや不安」の合計。18~19歳のデータは省略(出所)資料2に同じ

資料4 老後への不安や心配



(出所)資料2に同じ